

串焼き専門店「とさかや」平野東店 厨房機器移設・換気工事など完成

当社は4月19日に開店した、「とさかや」平野東店(大阪市平野区平野東2-3-3、写真)の開店に伴う各種工事を完成しました。



同店は、(株)トゥズプランニング(社長・松本成史氏)が「串ほんぼ とさか鳥てん」の名前で展開している串焼き専門店、海外進出を視野に、この度「とさかや」に名称変更。

帝塚山店(大阪市住吉区)の閉店に伴い、厨房機器の移設、エアコンの入れ替え、換気ダクト工事などを完成したもの。

同店は、地下鉄谷町線「平野」駅から東に徒歩約5分の南港通り「平野本町5」交差点を北に入ったところにあります。

4/18に東久邇宮記念賞授与式 全国からの139人に賞状手渡す 当社金岡会長が推薦委員

当社金岡会長が推薦委員を務める東久邇宮記念会(会長・吉村靖弘氏)主催の平成31年度東久邇宮記念賞授与式(写真)が4月18日午前10時から大阪ガーデンパレス



(大阪市淀川区)で開かれ、被表彰者181人のうち、全国から出席した139人に吉村会長から賞状が手渡されました。金岡会長が推薦した8人のうち7人が出席。同授与式が大阪で開かれるのは、これが5回目。

東久邇宮記念会とは、故・東久邇宮盛厚殿下と創設者・豊澤豊雄の思想・哲学である「発明には上下貴賤の別はない、みんな尊い。ノーベル賞を百とるより、国民一人一人が小発明をすることの方が大切だ。一億総発明運動を起こしたい」という理念を継承し、昭和38年に発足したもの。この趣旨に基づき、東久邇宮記念文化褒章(11月3日に授与)と東久邇宮記念賞(4月18日に授与)を授与しており、「高松宮賞」「秩父宮賞」と並ぶ三大宮様賞の一つ。

耳寄りな話

新年号の「令和〇〇年」を即座に「西暦〇〇〇〇年」に変換する方法をご存知ですか。

▽令和元年=(れいわ「018」+1=2019年)、まさか政府は、このことまで考えてはいなかったでしょうね。考え付いた人は素晴らしい! ちなみに

▽昭和=昭和(16年)は「25+16=1941年」

▽平成=平成(15年)は「88+15=2003年」

りそな銀行吹田支店 ファンコイルと加湿器を設置 三機サービス通じて受注



当社は、(株)三機サービス(社長・中島義兼氏)を通じて受注した、ファンコイルと加湿器を、りそな銀行吹田支店(吹田市朝日町3-116、写真)に設置しました。

プレハブ冷凍庫の扉を設置 ダイマツ通じて受注

当社は、藤本食品(株)(和歌山市、社長・藤本典子氏)の兵庫工場(兵庫県小野市住永町26、写真)



にプレハブ冷凍庫の扉を設置しました。(株)ダイマツ(社長・松元勝氏)を通じて受注。

【お断り】 長期休暇のため、今号は5月3日号との合併号です。従って5月3日号はお休みです。

常岡 一郎 著 現在を生き抜く
昨日はどんなに呼んでも、再び帰っては来ない。現在を明るく迎へ、必死の努力をつづける以外に、過去の暗さを消す道はない。明日はすぐ来る。来年もすぐ来る。油断してはまたつまずく。心を常に明るく生き生きと保つこと、過去にとらわれず、将来を空費せず、現在をはりきって堂々と働きぬくことである。

(常岡 一郎著 致知出版社)

イスラエル・ビジネスツアーに20人が参加

地元経済界などとの交流深める 将来のビジネスの種まきできる

当社・金岡会長の呼びかけで行われた「イスラエル・ビジネスツアー」(団長・菅家一比古氏)に20人が参加、4月13日から6泊7日の日程を終え、4月19日に無事帰国しました。2015年1月に安倍首相の訪問を機に、近年、日本との関係が急速に深まっている、中東のシリコンバレーとして注目を集めているイスラエルの諸事情を駆け足ながら視察するとともに、ビジネスの糸口を探るのが目的。所期の目的を十分に達成できたとは言えないものの、地元経済界などとの交流を通じてイスラエルに対する理解を深めるとともに、将来のビジネスにつながる種まきができる、実り多いツアーでした。

イスラエルは1948年独立の共和国

イスラエル国は地中海東岸にある共和国。シオニズム運動の結果、1948年独立。面積2、2万平方キロメートル(四国程度)、人口約868万人。民族はユダヤ人(約75%)、アラブ人その他(約25%)。言語はヘブライ語、アラビア語。宗教は、ユダヤ教(75%)、イスラム教(17.5%)、キリスト教(2%)、ドルーズ(1.6%)。



GDPは日本を上回る

経済指標を見ると、GDP成長率は3.6%と好調で、一人当たりのGDPも日本を上回る4万1000ドル、失業率は4%前後。国の格付けもAA(ダブルエー)と高評価。ただし、急激な経済成長に伴い消費者物価も上昇しており、飲食料品の物価はデフレ傾向が続く日本の1.5~2倍の感覚。宝石の原語であるJEWELRYはユダヤ人を意味するJEWが含まれているように、国を持たない流浪の民族であるユダヤ人が万一のときに身に付けて逃げられる財産とするために産み出した工業製品で、主な同国の輸出品一位がダイヤモンド製品であり、電子・光学機器、化学製品がそれに続く。また、年間降雨量が少なく水資源に乏しい同国で産み出された画期的な点滴灌漑技術により、農産物が安定的に供給され、同国の食料自給率は95%を超えている。

男女徴兵制を採用



エコシステムと呼ばれる男女徴兵制を採用する国防軍は、近隣の軍事大国であるイランにも核施設への先制攻撃を仕掛けられるハイテク技術を誇る。男子は18歳から3年間、女子は18歳から2年間の兵役が義務付けられ、中でも8200部隊と呼ばれるエリート集団はサイバー攻撃に対応する200~300人の頭脳集団で、ここの卒団生が、主にイスラエル工科大学に進学し、この国のハイテク産業のベンチャー企業となり、多くはグローバル大企業に買収される「スタートアップ企業」経営者となって成功している

空気から水を生成する技術開発

第2日目にウオータージ

ェン社を訪問した。降雨量が少なく砂漠地帯である同国の最大必要資源は水。空気から飲料水を精製する世界初の技術を発明し、軍用車載システムも開発。民需だけでなく軍需にも同社の技術を提供する。家庭用飲料水サーバー「GENNY」の日本販売代理店契約を模索中だが、販売価格は20万円以上となる見込みのため、日本のサーバーレンタル料(水20ℓ含む)が月5000円前後なので、単純に比較すると元を取るのに3年にかかるのが課題。(写真=日量900ℓの飲料水が生産できる同社主力製品 GEN-350)



水耕栽培のネタフーム社訪問



同日、続いてネタフーム社を訪れた。砂漠地帯が国土の大半で、降雨量も少なく水耕栽培で農産物(野菜)を収穫するのは同国にとって極めて困難なこと。そこで、同社が少ない水資源を大切にするため、効率よく農薬と養分を混入した水を植物の根っこに行き渡らせる技術を世界で初めて開発した。同社技術は日本でも各県で採用されており、トマトやブドウなどを栽培する農家の効率経営に貢献している。また、キブツというイスラエル独自の生活共同体集落から誕生した世界企業で、キブツで最高に成功した事例としても有名。ネタフームジャパンという日本法人も設立している。

在イスラエル日本商工会議所などと懇談



在イスラエル日本商工会議所と親善協会は、2015年に設立されたばかりの組織で、安倍首相とネタニヤフ首相の相互訪問により、両国の経済協力が具体化していった。その後、日伊投資協定(2017年10月発効)→JIINN(日本イスラエルイノベーションネットワーク)が同年5月開かれ、今年1月に第2回総会が開催された。在イスラエル商工会議所では、会長のゼエブワイス弁護士が、若いスタートアップ企業経営者数人を紹介し、具体的な取引を呼びかけた。

エリコ農産加工団地を視察

世界最古(約1万年前)の居住遺跡があるパレスティナ自治区内にあるエリコでの「平和と繁栄の回廊」構想により、日本、パレスティナ、イスラエル、ヨルダンの各国・地域の協力によって2006年から始まったパレスティナの経済的自立を促す旗艦事業として開発が始まった。第四期のうち、第一期工事が完了しつつある同団地本部では、パレスティナ側代表団に加え、JICA職員や経産省代表も出迎え、積極的な質疑応答が行われた。



当社金岡会長は「我々は観光に来たのではなく、具体的なビジネスを行うために来た」ことを強調した。

迫害と弾圧の歴史を学ぶ



4月15日、エリコ農産加工団地へ向かう前、テルアビブの「イスラエル独立記念館ビジターセンター」を訪問し、若い女子職員から1時間以上にわたって同国建国秘話の説明を受けた。全世界に離散したユダヤ人が第二次大戦時にナチスドイツから受けたホロコースト(大虐殺)によって1500万人のうち約600万人が命を落とした史実は、最終訪問地のエルサレム、ホロコースト記念館で学習する。迫害と弾圧の歴史からイスラエルとユダヤ人の強さを学ぶ。

“アッ浮いた”～死海で不思議な浮遊体験

エリコ農産加工団地訪問を終えた一行は、塩分濃度30%を超える海拔マイナス400m

の湖沼、死海で浮遊体験した。大量のミネラルを含む同湖の成分は肌に良いものが多く含まれ、同湖の泥炭をもとに開発された石鹸や化粧品は各国に輸出されている。その代表がアハバ社だが、政治上の問題もあって日本には製品が輸入されていない。



武士道精神を回復せよ～コーヘン氏が強調



エルサレムでは、市街地の台所、マハネー・ユダ市場を散策後、早めにホテルにチェックインし、元駐日イスラエル大使、エリ・コーヘン氏の「武士道に学ぶイスラエルと日本の共通事項と日本人の緊急課題」についての講演を2時間にわたって聴講した。

コーヘン氏は、本来の日本人が持つ武士道精神が失われている現状を危惧するとともに、今後日本が復活するために何が必要かについて、日本人がチャレンジしなければならない七つの具体的項目を訴えた。特に人口減少問題と安全保障の問題は軍事だけでなく食料とエネルギー自給率向上のため喫緊の課題だと強調された。

嘆きの壁で祈り捧げる

ユダヤ教徒にとって魂の故郷・東エルサレム旧市街地にある、神殿に代わる聖地である、高さ21mの嘆きの壁で、キッパという小さな丸い帽子を頭に載せて祈りを捧げた。



祈りを捧げる～ホロコースト記念館



最終訪問地のホロコースト記念館では、第二次大戦時のリトアニア駐在大使の杉原千畝氏が、独自の人道的判断で2000家族を超えるユダヤ人(計約6000人)に日本への渡航ビザを発給して救出した史実を記念する植樹碑を前に、団員の堀内明日香さんが鎮魂歌を独唱して全員で祈りを捧げた。

歴史の重さの一端を垣間見る

厳しい自然条件の中、政治・宗教・人種問題…など何百年と続く過酷な条件を抱えながら、人間の知恵を最大限に生かし、力強く歩み続けている同国の、歴史の重さの、ほんの一端ながら垣間見ることができ、大変勉強になった。(金岡副団長)